

吉村昭『関東大震災』のメモ

takaidos

吉村昭。
1973年発行。

火災竜巻やデマによる朝鮮人虐殺の話の一部は知っていたが、これほど酷いとは知らなかった。

デマを具体的に捏造したり誤認したことを実際に見たと主張する者、電報を届けに来てくれた人を村で袋叩きにしたり、自警団のひとりが「朝鮮人だ！」と声を上げただけで袋叩きにしたりなど各地で事件が相次いだ。

こうしたデマと暴徒化した日本人については、あまりにも酷いので当時の政府は国の恥とし諸外国、歴史の表舞台から隠して来た。一方で政府が社会主義者を騒擾を起こしたとして嫌疑をでっち上げ強制逮捕し秘密裏に首を刎ねてしまったことも隠蔽された。。。

本書は重要かつ有用で教訓とすべき多くの情報を含んでいるが、本書の英訳版は無い。

Wikipediaには『1923 Great Kantō earthquake』が存在するが、具体的な個別の事例の記述はない。

毎年8月の戦争回顧も重要だが、毎年9月に発生した関東大震災と民衆の暴徒化の話も忘れられないように取り上げるべきだと思う。

警察や憲兵隊がどさくさに紛れて大杉栄ら社会主義者らを殺害してしまったこと、その後の組織による隠蔽工作など、今日の事件にも通じるものがある。

恐ろしいのは何かに捕まっても目が回るほどの揺れでも火災でもなく、それ以上に遺体から金品を巻き上げて歩く人間やデマや飢えで暴動に及ぶ人間、どさくさに紛れて対立する政治活動を行なう人間を殺してしまう公権組織である。

★★★★★

<目次>

01. 大正四年の連続的な地震
02. 二人の地震学者-大森房吉と今村明恒/今村の予測
03. 大正12年9月1日-関東大震災 M7.9の地震発生/地震計の針が飛ぶ
04. 神奈川・千葉の被害状況
05. 東京府の家屋倒壊状況
06. 大火災に見舞われた被服廠跡～3万8千人の死者
07. 浅草・本所・新吉原・深川の被害
08. 焼け残った地域、横浜市の被害状況

09. 通信機関の途絶・流言(津波や地震再来)の拡散・死者から金目の物を奪う輩
10. 囚人・治安への不安
11. 山口正憲による略奪煽動と朝鮮人暴動というデマの拡散
12. 朝鮮人虐殺・地方への流言の拡大、暴徒と化した自警団、襲撃される警察・日本人
13. 流言を拡散した新聞の検閲、亀戸署による社会主義者の強制逮捕と処刑
14. 憲兵隊による大杉栄、伊藤野枝、甥(6歳)の殺害
15. 犯人・甘粕正彦大尉らの裁判とのその後
16. 夥しい遺体の火葬～重油火葬
17. 衛生問題～糞尿、塵芥、公衆道徳、疫病発生、避難民の分散、バラック街の衛生問題
18. 治安問題～横行する略奪、強盗、官憲・郵便局員を名乗る詐欺/生活必需品の物価高騰を引き起こし暴利を貪る卸売業者とその取締/海外の援助と革命ソ連からの援助の拒否。
19. 大森房吉の献策と英雄となった今村恒明/後藤新平の復興計画

<メモ>

・今村明恒～東京直下の大地震は100年おきくらいに起きているので50年以内に地震は来て、10万～20万人くらいの犠牲者が出る。
←大森房吉、いたずらに庶民を動揺させるな、として反論。
しかし的中!

・東京市(郡部除く)の死者数。
～本書が書かれたときは20万人以上と考えられていた。全体では二重カウントを除いて105,000人。

焼死:52,178名

溺死:5,358名

圧死:727名など。

・東京市の被害状況:

全壊戸数:2,231戸

・横浜市の被害状況:

全壊戸数:18,149戸

全市の総面積の80%が焼失。

・引越し先まで荷物といっしょに歩いていたらゴーっという音がして近くに鉄道でも走っているのかと思ったら地震だった。

妻と反対側に跳ね飛ばされて垣根にしがみついた。

次の瞬間、地面が海のように波打ってぐるぐる回っているような感覚になった。

・火災竜巻の事例。山岡清真(当時20)の被覆廠跡地での体験談など

。逃げる時に転んだ瞬間に人に火がついた。老婆を背負った人や馬車が馬ごと、空中に巻き上げられたという目撃談。

旋風に2メートルほど巻き上げられて地面に落下したという体験談。遺体から脂肪が流れ出ていた。

大気が熱く、地面に伏せるとかろうじて息が出来た。しかし群衆が逃げて来るので転んだり伏せたりしていると踏みつけられて死んでしまう。

吉原では池にみんな入って行ったが池の中央の深みにみんな押されて溺れ死んだ。

被服廠の万単位の遺体は腐敗して移動もままならないので、広場で重油で火葬した。

遺体処理に88人の人を高級で募集して集まったがその日の終わりまで立っていたのは4人。みんな具合が悪くなり、次の募集では人が集まらなかった。

・火災の原因。

①正午直前の11:58:44で火を使っている家庭が多かった。東京ではすでに石油ランプなど西洋器具もあった。

②逃げる時に火を消さなかった家が多かった。圧死から逃れるだけで精一杯だった、天ぷら油がこぼれた、研究所、学校、工場、医院、薬局、試験所などで薬品が発火した。火元は東京市内では178箇所に及び強風に煽られてたちまち広がった。

③逃げる時に大八車、馬車などで家財道具といっしょに移動したため、道路、橋梁はいっぱいになり広場に燃えるものが集まってしまった。

④地震で水道が断水し消化活動ができなかった。→江戸時代の家屋破壊の見直しへ。

・永代橋焼失。

青年の体験談「独身者の私はどちらかと言えば呑気にそちこち逃げ回っていましたが…」。

永代橋では橋を渡ろうとする人で大混雑し窒息死するのか人が片っ端から倒れて行った。

橋に火がつき人が川に飛び込んだがお互いに溺れないようにしがみついていたため、隅田川は死骸でいっぱいになった。

「社会主義者が朝鮮人と協力し放火している」などのデマの背景について。

・通信機関が途絶し、新聞各社も焼失したため、新聞の再開に4,5日~2週間以上かかった。

その間、庶民は自分たちの地域だけ災害に遭っているのか、日本全

体が同じ目に遭っているのか、果ては地球全体がそうなのかすらも分からなかった。

・明治以来の富国強兵策を政策の中心に据えて財界との連携を深めていた。そうした政治姿勢に庶民の不满はつのもり、米騒動をはじめとした運動が全国的に広がっていた。
が、政府はこれらの素朴な反発を根本的に解決しようとせず、官憲による弾圧でそれに対した。
その中で社会主義運動は活発化し政治結社が続々と結成され、全国各地でストライキも頻発するようになった。
政府は官憲を駆使して社会主義者に過酷な弾圧を試み、震災前の6月5日は第一次共産党員の検挙も実施していた。
そして庶民に対しては社会主義者は国家秩序を覆すものと喧伝し、一般庶民も運動家を忌避する傾きが濃かった。

・日本政府は朝鮮を強引な手段で領有したが朝鮮人の憎悪は募るばかりで伊藤博文も暗殺された。
日本人の内部には朝鮮人に対して一種の罪の意識が潜んでいた。
社会主義運動家は朝鮮人労働者との団結を強調し前年末には朝鮮人労働者同盟会の創立に支援していた。

→流言というが、デタラメな話を作った連中がいるはずでどういうプロセスで嘘の話が実しやかな話になって行ったのか？

(例)

朝鮮人が井戸に毒を入れ回っている。
ダイナマイトや銃で武装した集団が東京に向かっていて。
清掃会社が各家の板塀や門柱に残している記号を見て、朝鮮人が襲撃対象や襲撃方法の連絡としている。記号は単に当時の”汲み取り便所の位置”や個数といったメモだった。
12a, 2p, 1m、λ、r、ケ、u, m, ◎など。

・東京府、横浜市の罹災者は飢えと渴きに苦しめられた。
政府は一般避難民を地方へ無賃で列車輸送することにした。
しかし鉄道の輸送力は乏しく、逆に地方から東京、横浜の災害地に列車でやって来る者もいて食糧事情はさらに悪化した。
興味本位や宮城を守ると武器を持って来る者もいたので戒厳令司令部は災害地へ入っていい者の条件を布告した。

・9月末まで列車で200万人を地方へ輸送出来たが、大混雑で列車の屋根に乗ったり列車の下で車軸にしがみつくる者もいたし、車内で排泄せざるをえなかったり、死んだ子供を背負っていて腐臭が漂うひともいた。

機関車の煤煙で走行中落ちて死ぬ者もいた。

- ・避難民が地方へ散ると、デマはさらに地方へも広がってしまった。

- ・朝鮮人來襲のデマは政府、軍部、警察関係者は一部信じて、同時に騒擾を好む一部日本人残虐性が悲惨な事件を続発させてしまった。

地方の新聞社もこのデマを真実として流布してしまったため、地方でも殺傷事件が起きてしまった。

亀戸警察による社会主義運動家の殺害と憲兵による大杉栄らの殺害

- ・甘粕事件

大杉栄と伊藤野枝はアナーキスト。

甥の橘宗一(6歳)は米国籍だった。

→

そのため米国外務省から抗議が入り、大杉栄らを殺すように指示したのが甘粕より上位の人間だったことが推察された(Wiki)。

甘粕大尉らは死刑にならず、甘粕はのち満州に転属し終戦時に自殺するまで生きた。

- ・東京市の避難民:

集合地は上野公園、宮城前広場、日比谷公園、芝公園など。

上野公園50万人、宮城前公園30万人など。

- ・地震で車や汲取道具も焼失したため、便所の糞尿が溢れて、人々は外でも平気で用を足すようになった。不衛生になり疫病も流行った。

- ・地震で灯火が不足し、東京・横浜の夜は暗くなった。

闇夜について強盗・略奪が横行した。

(例)

右翼・立憲労働党総理・山口正憲を首謀とする集団強盗事件。

山本徳太郎と11人の強盗団。

～被災者に物資を分配すると行って各戸を略奪して回った。

暴徒の数が多いと警察も無力だった。軍を要請→戒厳令へ。

- ・生活必需品を高価で売って大儲けをする暴利商人が現れた。

政府は震災前の価格の3割を越えて値上げしないように通達を出した。

しかし転売屋も現れて価格は落ち着かなかった。

調べてみると卸売業者がそもそも高値で売っていたため、卸売業者も取締強化をして価格高騰を鎮静化した。

・地震予測の発表の時にいたずらに地震発生が近いという一般大衆が動揺するので注意が必要。

- ・震災後の著名な各学者の提言。
- ・大森房吉、今村明恒:計測、歴史的統計に基づいた地震学。
- ・長岡半太郎:理学博士。地球の形と内部構造に焦点をあてた基礎研究を主張。
- ・石原純:歴史的統計と同時に統計の研究と同時に計測、地質、物理の研究も並行すべき。
- ・寺田寅彦:地震と人間について。火災に関しては江戸時代より後退してしまった。流言についても冷静に考えれば信ずるに足りないものだったのに科学的な判断を持たぬために起こった不祥事であったと非難。

- ・大森房吉は死ぬ間際に後藤新平に水道施設の改良を提言した。
- ・今村明恒は関東大震災のあとは東京にはすぐには直下型地震は来ないと予測したが発生した。ここに地震予測の難しさを感じた。

・5千人を超える死者数(Wikiより)

地震・台風死者数。

1891 濃尾地震	:	7,273人
1896 明治三陸地震津波	:	22,000人
1923 関東大震災	:	105,000人
1959 伊勢湾台風	:	5,098人
1995 阪神淡路大震災	:	6,437人
2011 東日本大震災	:	22,199人